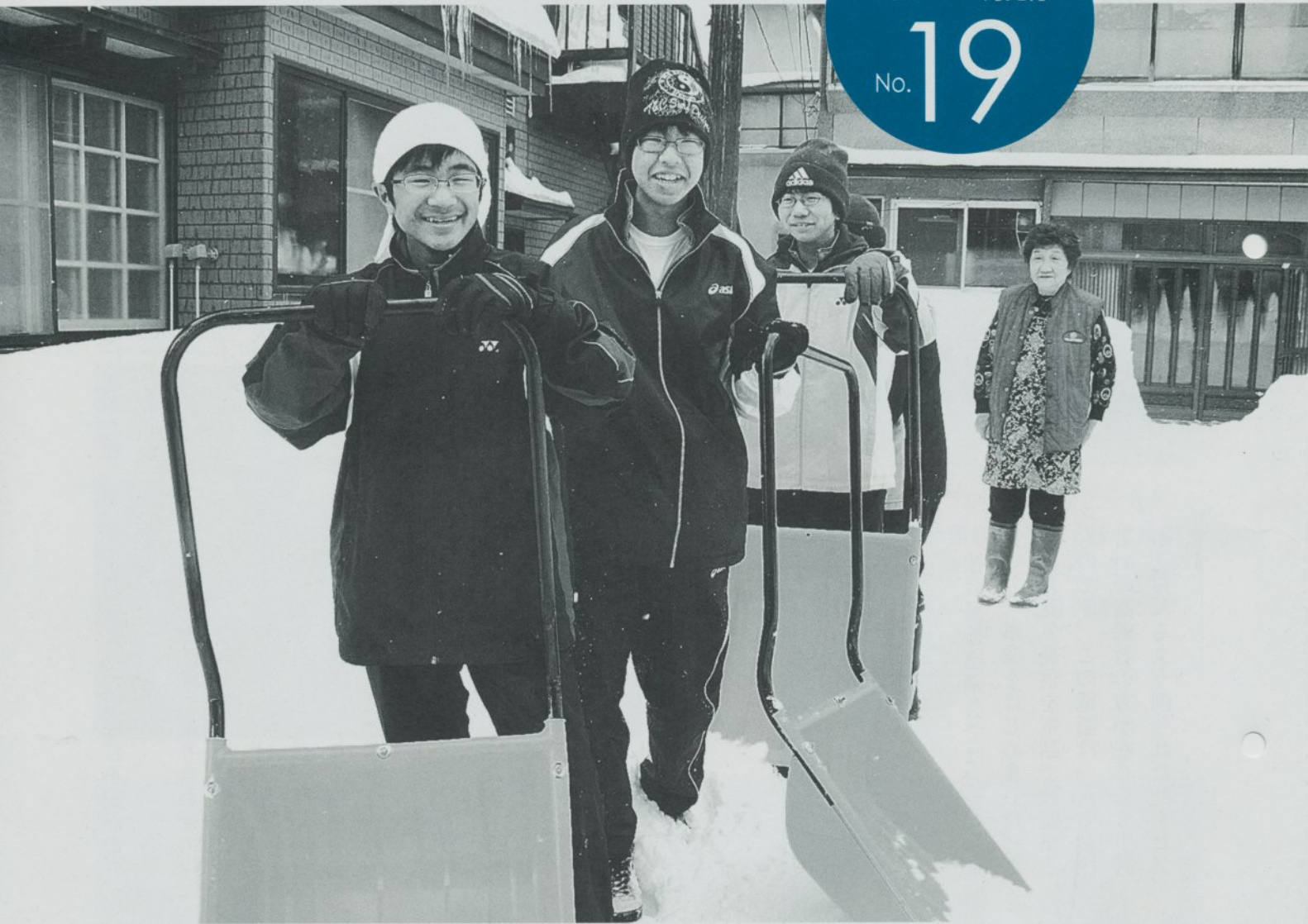


ふれあいネットワークはちまんたい

福祉だより

2011. 1 月発行

No. 19



主な内容

新年のごあいさつ……	P2
福祉大会の様子……	P3
募金のお礼……	P4~P5
フオット広場……	P6~P7
お知らせ……	P8

大雪でも笑顔を届ける活動

今年、大みそかから元日にかけて大雪に見舞われました。大雪の警報が発令されて降りしきること八十センチを超える積雪になりました。

突然の湿った雪も何十年ぶりとかで道路や屋根の除雪の心配も聞かれます。

毎年なのですが、ボランティア活動にスノーバスターズの活動があります。

市内では子どもたちを含む三団体、三百五十人がお年寄り世帯を対象に雪かきのお世話です。

「いっつも、ありがとうございます」と感謝のことばに地域の結いの心がまぶしく光りました。

ご活躍をお願いします。

結いのところで幸せの郷づくりに向けて 支えあい、地域のネットづくり



盛内源榮会長

皆様には、夢と希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと心から喜び申し上げます。
平成二十二年から二十三年に引き継ぎの大みそかは大雪に見舞われ、交通機関のストップや停電な

ど生活ラインの確保に不安が走りました。

穏やかな四季の巡り合わせの中に予期しない災害に見舞われないことをご祈念申し上げます。

私におかれましては、昨年の三月に役員の改選により工藤勝治会長から八幡平市社会福祉協議会長として重責を引き継ぎまして早くも一年を迎えようとしております。

社会福祉協議会の各事業においても順調に運営しておりますことに深く感謝申し上げます。

地域福祉の基本は、「温かい心を育み、誰もが安心して暮らすことのできる幸せの郷づくり」を指すものであります。

この福祉活動のなかに世代をつなぐ活動や敬愛を育む活動、お互いを尊重する活動など結いの精神で市民の皆さんが直接、手を携えるネットワークづくりを運動しております。

本年も住みよい八幡平市の大地に皆さんと協働する「幸せの郷づくり」のために役職員一同、地域の福祉活動に一層の力を注ぐものであります。

関係各位のより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

結びに皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。ごあいさつといたします。

高齢者世帯、一日一回ダイヤル を押して安否確認 ご利用を

社会福祉協議会では、「お元気見守り」事業をはじめました。毎朝、お元気発信を電話で確認するものです。この電話は一人でお住まいの高齢者の方が安心して生活が送られるよう創られたサービスです。

一日一回、ご自宅の電話を使って、健康状態を電話していただき、その日の安否を職員がパソコンで確認するものです。ご希望の方は、事務局までご相談ください。

(TEL 七四一四四〇〇)

▽第五回八幡平市社会福祉大会、盛大に



西根中の中野先生ほか吹奏楽部の皆さん

市社協主催による社会福祉の発展に功績のあった方々を表彰し、市民による福祉の輪を誓い合う市民総参加の大会は、今回で五回目です。

平成二十二年十一月七日(日)、会場となった西根地区市民センターには、受賞者を始め来賓、福祉関係者など約二百六十人が集いました。

表彰式に引き続き大会宣言が採択された後、市立大更小児童と西根中生徒の皆さんによる吹奏楽の発表があり、会場からは惜しみない拍手が続きました。

◆受賞者のご芳名一覧(敬称略・順不同)

◆社会福祉団体の役員	石綿 幸雄(西根)	田村 勇(西根)
① 工藤 貢(西根)	小田島 アサ子(西根)	
◆社会福祉団体の職員	高橋 久子(西根)	遠藤 久美子(西根)
② 齊藤 宏久(西根)	渡辺 智恵子(西根)	松村 牧子(西根)
伊藤 信子(西根)	高橋 ミホ(西根)	工藤 るみ子(西根)
佐々木 由紀(西根)	山本 良子(安代)	
③ 民生委員・児童委員	加藤 トシ(西根)	目時 嘉一郎(安代)
島山 修悦(安代)		
◆ボランティア活動功労者・団体表彰		
盛内 貞春(安代)	阿部 壽子(安代)	
◆褒賞		
松村 藤雄(西根)	毛鳥 シワ(安代)	田村 昭蔵(安代)
岩間 信夫(安代)		
◆福祉健康標語最優秀賞		
井上 歩海(大更小三年)	新井 愛香(平館高一年)	

◎体験コーナーなど盛りだくさんの福祉まつり



バルーンアートの無料体験コーナーにて



バザーや売店は盛況でした

平成22年度 福祉健康標語 最優秀賞

〈福祉の部〉
手をかすよ
つねのかわりに
わたしの手
〔大更小三年 井上歩海〕

〈健康の部〉
健康は
光り輝く
財産です
〔平館高一年 新井愛香〕

社会福祉大会と同じ十一月七日(日)に、市民センターで同時開催された福祉まつりは、市内の福祉団体や障害福祉サービス事業所によるバザーを始め、食堂や売店、介護機器の展示、製作・体験コーナーなど、趣向を凝らした催しには多くの方が訪れました。

地域や世代を超えた交流を支えるため、市民が主役の行事として定着することを目指しているものです。